

カメラバック選び

リュック・ショルダー・ウエスト

どれが良いの？



バックパック/リュック

アウトドアフィールドのカメラキャリングには、両手が空くバックパックタイプのカメラ..



ショルダーバッグ

タウンユースや機材の出し入れのしやすさなら、ショルダータイプのカメラバッグがお勧め..



トップローディング/ズームバッグ

最小の撮影機材運搬に最適な、トップローディングタイプのカメラバッグ。



ローリングケース/カート

大量の機材を運搬するなら、車輪がついたカートタイプのカメラバッグがお勧め。



カメラバック選び リュック・ショルダー・ウエスト どれが良いの？

カメラを趣味としてはじめてとき、昔は入門者用カメラを買うと、メーカーのカメラバックがよくおまけで付いてきました。これらのカメラバックは、カメラ本体とWズームキットがちょうど収まるサイズで作られているものが多かったと思います。

最近ではもう見かけることはなくなりましたが、使い始めには適当なバックでした。

ただ、機材が増えてくると収まらなくなるためバックを検討する必要が出てきます。

高倍率ズームレンズや高倍率コンパクトカメラを主に使うのであれば、本体にレンズをつけてそのまま持ち歩けるものが便利です。



複数のレンズを持ち歩くのであれば、それらのレンズが入る大きさのものがなってきます。ショルダーバックは、鞆を下ろすことなくレンズの交換などが出来るので、便利ですが、機材が多くなると大きく重くなります。

機材がショルダーバックで収まらなくなってきたり、登山などでの撮影が主体となってくると、リュックタイプとなります。多くの機材を納めることが出来る上リュックですので持ち歩いても重さの割には楽に運べます。しかし、レンズ交換などの旅に下ろして交換する必要がありますので機動性には欠けるともいえます。

ローリングケースは、機材として超望遠レンズなどを運ぶ際に使用される事が多いです。撮影する場所や使用する機材の量によって使い分けることが必要となります。

カメラバックとして作られたものには、クッション材が使われているため大きさの割に内容量は、小さくなる傾向があります。これは精密機器としてのカメラを守るために作られたためといえます。

では、カメラ専用バック以外は使えないのかというと、対策をすることで十分使うことが出来ます。インナーボックスやカメラ本体を覆うようなクッション材を使うことで対応することが出来ます。これらを使うと普段使いしている、使い慣れた鞆がカメラバックとして使えるので旅行などで重宝します。

今の私のカメラバック

小ぶりのリュック

これは、主にバイクで移動する際に使っています。今乗っているバイクのシート下のメットインサイズに、ぴったしだったので、緩衝材を入れて使っています。現地で撮影する際にはリュックとしても使えますし、ショルダーバックのストラップをつけていますので、ショルダーバックとしても使っています。ミラーレスカメラボディを一つ、標準ズーム24-70、望遠ズーム70-200、広角ズーム16-35とサブカメラが収納できます。



ショルダーバック

今使っているショルダーバックは、ソニーの一番大きなものです。

ミラーレスカメラボディを一つ、標準ズーム24-70、16-135、広角ズーム16-35、望遠ズーム70-200、100mmSTF、とサブカメラが収納できます。

ショルダーバックを選ぶときの注意として、ストラップが交換できるかどうか重要なポイントになります。

肩に荷が掛かるだけにこのショルダーベルトの性能は、大事なのです。

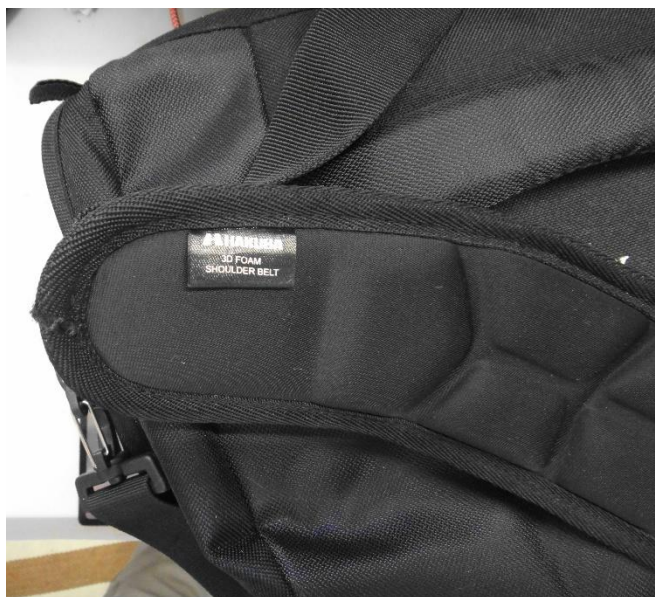
カメラ購入時におまけで付いてくる鞆では、縫い付けられていますので交換は出来ません。



カメラバックのメーカーの鞆でも、交換できないものは結構あります。ショルダーベルトだけ単体で販売されていて、滑りにくくなっていて、クッション材が工夫されているものがあります。これらを変えることで肩への負担がずいぶん変わります。

カメラバックだけで探さずに、ビジネスバックでパソコンなどの機材を運ぶ際の鞆のショルダーベルトも調べると良いと思います。

ショルダーベルトの付け根部分は経年劣化で、破断することもあります。時間があるときには確認しておきましょう。



ウエストポーチ

街歩きなどで撮影する場合に、コンデジなど必要なものだけを入れて撮影して回りたいときにはウエストポーチが便利です。ただ、カメラバックとして作られたものではあまり容量の大きなものではなく、コンデジまでとなってしまいます。



バイク用のウエストポーチやヒップバックは、防水加工やクッション性などがあるものが多く選択肢としてあげられます。

量を大きくして考えると、ボディバックタイプの種類が豊富ですが、ショルダーバックを斜めがけして持ち歩くよりは意外と使い勝手は悪そうです。

魚釣りのウエストポーチは、防水がしっかりしていて生地が厚めで固さもあります。

ショルダーストラップを補助的に使用できるものなどもあります。竿を振る際に鞆がじゃまにならないようにしっかり体にくっつくように工夫されています。ただ、クッション材は入っていないので、カメラを保護できるようにする必要があります。

鞆を置く際にカメラに対して衝撃が走ることになりかねません。

鞆の底にウレタンやプチプチのような緩衝材を敷き詰めておくと良いと思います。



ヴァンガード THE HERALDER28

今のソニーのショルダーバックを使うまではこれを使っていました。

インナーバックが取り外せるので、普段使いにも重宝しました。

また、タブレットを持ち運ぶケースもあり、そのスペースもあります。三脚のホルダーやレインカバーもあってカメラバックとしては完璧。カメラのサイズとうまく合わなくなったので今では使わないようになってしまいました。



カメラジャケット

キットレンズや高倍率ズームだけを持ち出したいときに使うと便器のが、カメラジャケットです。

クッション性のある生地で作られていて、普段使っている鞆に入れて持ち歩くことができます。

サイズは何種類かあって価格もリーズナブル。

昔は革の専用ケースだったものが汎用的なものになっています。



ショルダーストラップ

ショルダーバックの場合、ストラップを交換するだけで持ちやすくなることが多いです。

バック付属のものはそれなりに良いものもあるのですが、負担軽減を考えて作られたものは、使うと違いに驚かされます。

滑りにくいだけでなく重い機材が固く食い込むことがなくなり撮影が続けられます。

パッドを交換するだけでも変わりますよ。



HAKUBA 3Dフォームショルダーパッド

身体にフィットするエルゴカーブ形状の3D成型フォームパッドを採用したショルダーパッドです。カメラバッグやビジネスバッグなどのショルダーストラップに取り付けることでバッグの荷重を分散し肩への負担を軽減します。ズレにくい構造で通気性も良く、優れた装着感でバッグを快適に持ち運ぶことができます。

自分の大切なカメラを守り、撮影するときの道具を運ぶ大事なカメラバック。

いくつも持つことになると思いますが、上手に使い分けていきたいともいます。